

# 日本軽金属グループの カーボンニュートラル戦略



2023年11月14日  
日本軽金属ホールディングス株式会社

## カーボンニュートラル実現に向けた活動の進捗状況

日本軽金属グループ カーボンニュートラル戦略

2030年度には、2013年度比30%削減(Scope1・2, 3)

### I. 脱炭素化がもたらすリスクと機会

→脱炭素社会実現への流れの中で、アルミニウムへの期待が高まっている

### II. 方針と戦略

→現状分析: サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を把握し、優先すべき対策を特定

→戦略立案: Scope1・2と3の削減目標と具体的施策への落とし込む

【補足】 ①循環型サプライチェーン構築に向けたグループ内連携  
②循環型サプライチェーン構築に向けたお客様との連携

### III. カーボンニュートラル(CN)推進体制整備

→カーボンニュートラル推進室(司令塔)とメタル事業部(実行部隊)の設置

→今後の進め方: ロードマップの作成・公表/カーボンニュートラル推進室内に部会設置

2050年度

カーボン  
ニュートラル

## 1. 脱炭素化がもたらすリスクと機会

### 脱炭素社会実現への流れの中で、アルミニウムへの期待の高まり

#### リスク側面

#### 機会側面

SCOPE1,2

炭素税導入の動き  
CO2排出=コスト増

CO2発生量に応じてエネルギーコストに課税  
※ 先行する欧州を基準にすると10,000円/t-CO2課税の可能性も。

SCOPE3

リサイクルによる素材の  
低炭素化ニーズ

アルミは低融点のため、アルミ製錬に比べ、リサイクルしやすく、リサイクル推進によりCO2が削減可能

Market Demands

自動車のEV化が進むと、電池により車体重量が増えざるを得ない。そこで、車体や部品のアルミ化により軽量化を図る。

EV化に伴う  
車体軽量化ニーズ

#### リサイクルによるCO2排出量低減



※アルミニウム新地金製造時を100%とした場合

## 2. 方針と戦略 現状分析

### 分析総括

簡便的な方法でCO2排出量\*の全体感を把握  
→各Scopeにおける施策の優先事項を特定

適切な排出量把握

\*CO2排出量集計の対象は、NLMグループの国内事業。

2013年度  
CO2排出量

Scope1・2  
68万t-CO2

### Scope1・2 CO2排出量

Scope1 30万t  
Scope2 38万t

省エネ+再エネ転換

Scope3  
排出量

204  
万t-CO2

### Scope3 CO2排出量

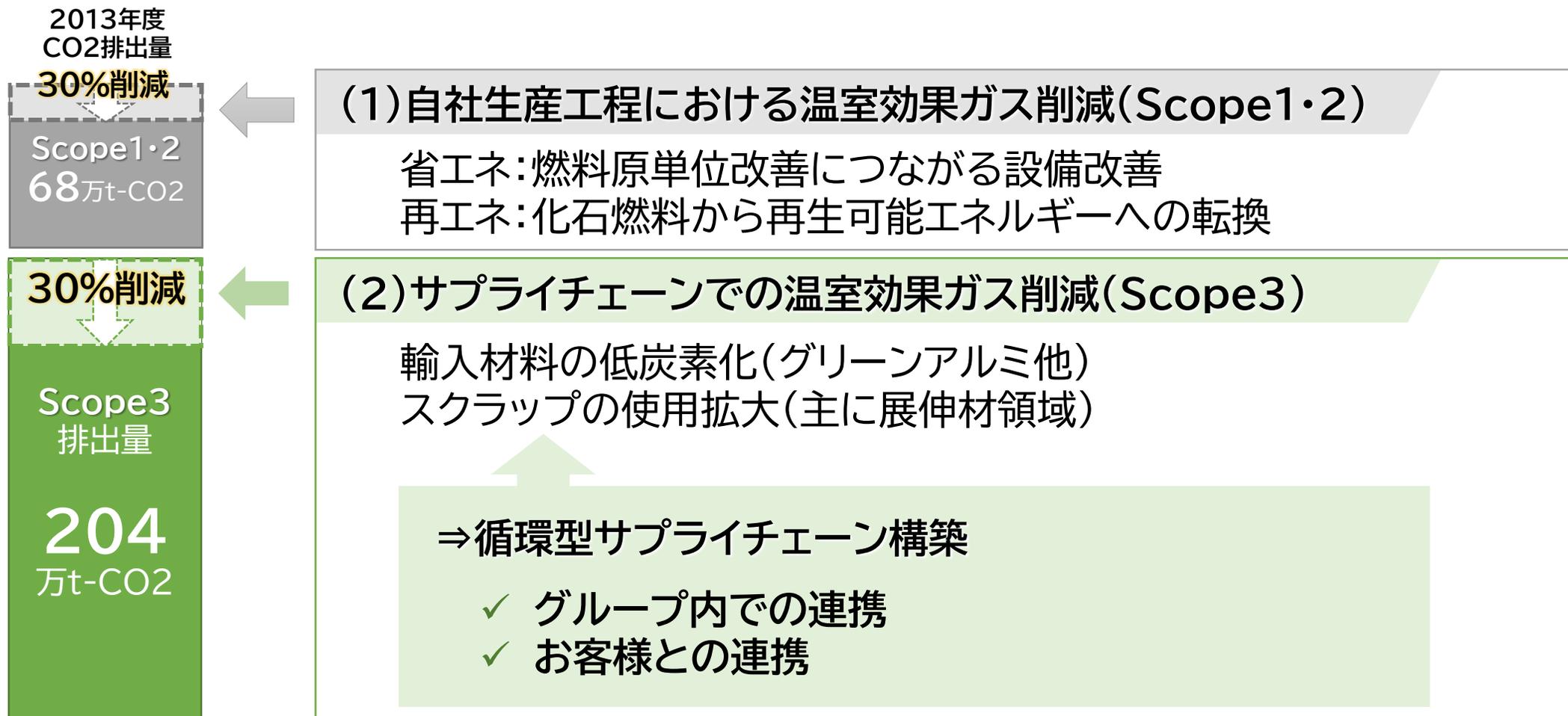
発生量の81%がアルミ新塊地金起因  
アルミ新塊はほぼ展伸加工用に利用



展伸材の低炭素化

## 2. 方針と戦略 日本軽金属グループの脱炭素戦略立案の考え方

### 循環型サプライチェーン構築が脱炭素戦略においても重要に

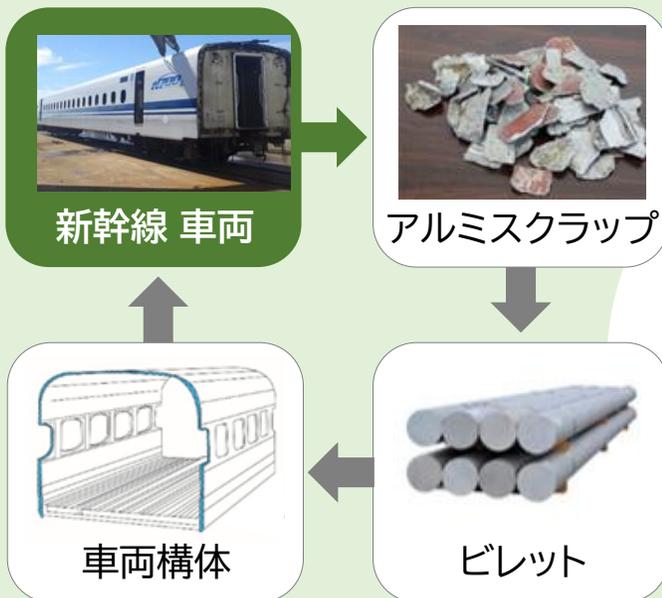




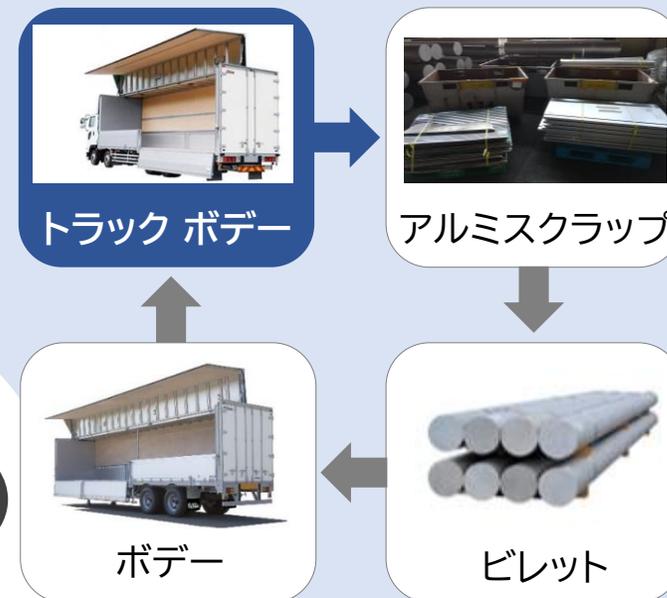
## 2. 方針と戦略 循環型サプライチェーン構築に向けたお客様との連携

連携した循環型サプライチェーン構築がお客様にとっても価値に

### 新幹線 to 新幹線

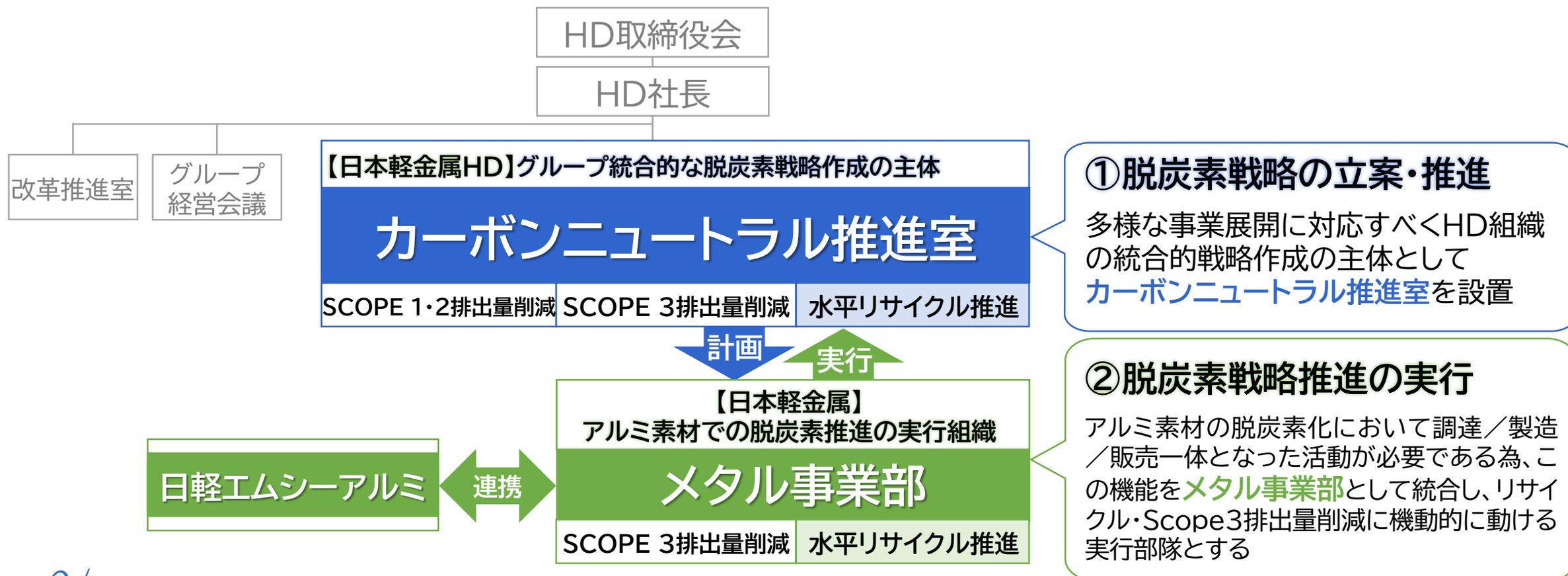


### トラックボデーのグリーン材化



## 3. カーボンニュートラル推進体制整備

- ・カーボンニュートラル推進室設置：グループ統合的な脱炭素戦略の作成
  - ・メタル事業部統合：脱炭素のカギとなるアルミ素材部門の再編成
- ➔ 統合的かつ機動的な脱炭素推進体制を構築



## 3. カーボンニュートラル推進体制整備 今後の進め方

